

認 定 書

国住指第 1757 号
令和 2 年 8 月 19 日

日鉄建材株式会社
代表取締役社長 中川 智章 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0178-1
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床 (合成スラブ・連続支持)

2. 寸法及び形状等

(寸法単位: mm)

項 目	仕 様
床 厚	155 以上(山上コンクリート厚 80 以上)
荷重と支持間隔の 関係	・ 支持間隔 2,400 以下の場合 自重を含めた全荷重 23.00kN/m ² 以下 ・ 支持間隔 2,400~3,600 の場合 自重を含めた全荷重 (W) × 支持間隔 (L) の 2 乗=132.5kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す)
支 持	連続支持

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位: mm)

項 目	仕 様
①デッキプレート	・ 規 格 JIS G 3352 (デッキプレート) ・ 厚 さ 1.0、1.2、1.6 ・ 山高さ 75 _{±1.5} ・ 働き幅 300 _{+8,-2} 、600 _{+8,-2} ・ 種類記号 (1)~(5)のいずれか一仕様とする。 (1)SDP1T (厚さ 1.2, 1.6 に限る) (2)SDP1TG (厚さ 1.2, 1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3
②コンクリート	・ 種 類 普通コンクリート ・ 呼び強度 18~45 ・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
① ひび割れ拡大防止用鉄筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3551 (溶接金網及び鉄筋格子) ・種 類 1)～4)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) WFP 2) WFC 3) WFR 4) WFI ・断面寸法 線径 6 以上 ・間 隔 100 以下×100 以下 ・かぶり厚さ 床版上面から 30 <p>(2) 鉄筋 (異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 (イ)～(ホ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) SD295A (ロ) SD295B (ハ) SD345 (ニ) SD390 (ホ) SD490 2) JIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼) <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 (イ)、(ロ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) SDR295 (ロ) SDR345 ・断面寸法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 30
② スペーサー	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上 ・間 隔 1000 以下 <p>(2) セメントモルタルブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
③はりと床版の接合方法	<p>[1]デッキプレート端部はり 頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none">・規 格 JIS B 1198 (頭付きスタッド)・寸 法 径 16×110 以上・間 隔 300 以下 <p>[2]デッキプレート中間部はり (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)焼抜き栓溶接</p> <ul style="list-style-type: none">・直 径 18 以上・間 隔 300 以下 <p>(2) 頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none">・規 格 JIS B 1198 (頭付きスタッド)・寸 法 径 16×110 以上・間 隔 300 以下
④はりとデッキプレートの接合方法	<p>[1]デッキプレート端部梁 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする</p> <ul style="list-style-type: none">(1)アークスポット溶接(2)すみ肉溶接(3)焼抜き栓溶接(4)プラグ溶接(5)打込み鋸 <p>[2]デッキプレート中間部梁 (1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする</p> <ul style="list-style-type: none">(1)アークスポット溶接(2)すみ肉溶接(3)焼抜き栓溶接(4)プラグ溶接(5)打込み鋸(6)なし (焼抜き栓溶接を用いる場合)

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重(kN/m ²)
2400 以下	23.00 以下
2500	21.20 以下
2600	19.60 以下
2700	18.18 以下
2800	16.90 以下
2900	15.76 以下
3000	14.72 以下
3100	13.79 以下
3200	12.94 以下
3300	12.17 以下
3400	11.46 以下
3500	10.82 以下
3600	10.22 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=132.5\text{kN}$ 以下であることを確認すること

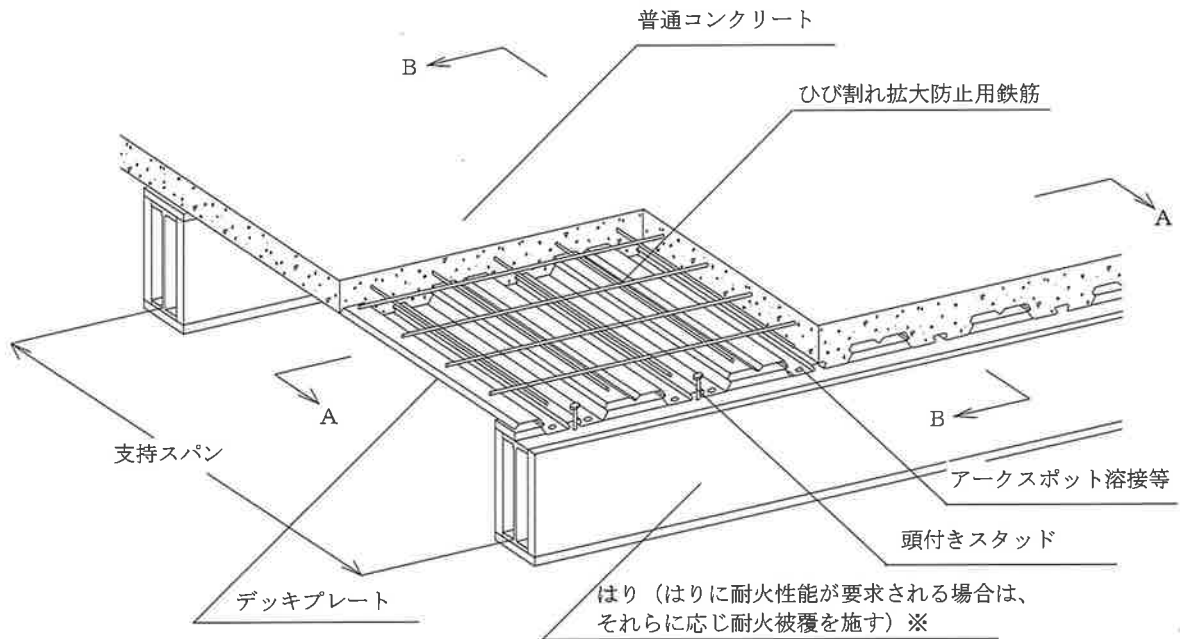
W : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

L : 支持間隔 (m)

(寸法単位：mm)

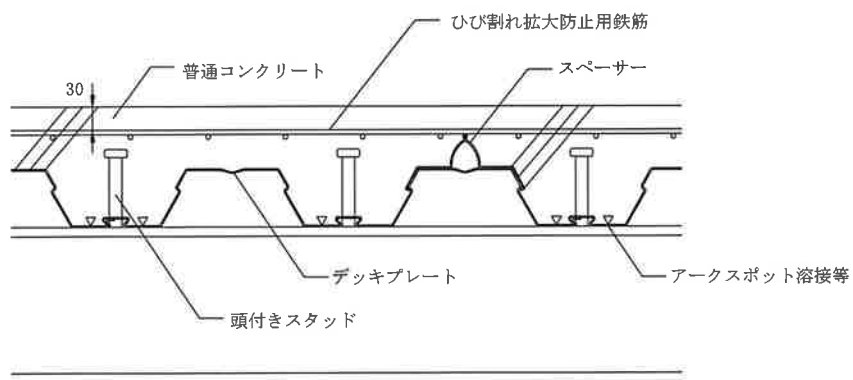
4. 構造説明図

[1] 透視図



[2] A-A断面図

(1) デッキプレート端部梁

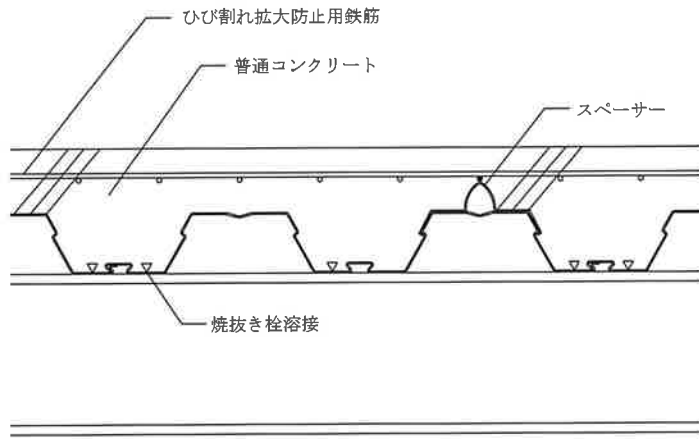


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

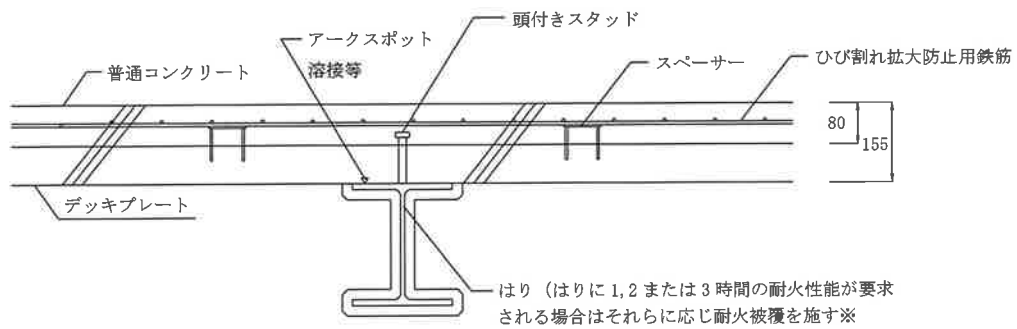
※：本評価内容に含まない

(2) デッキプレート中間部梁

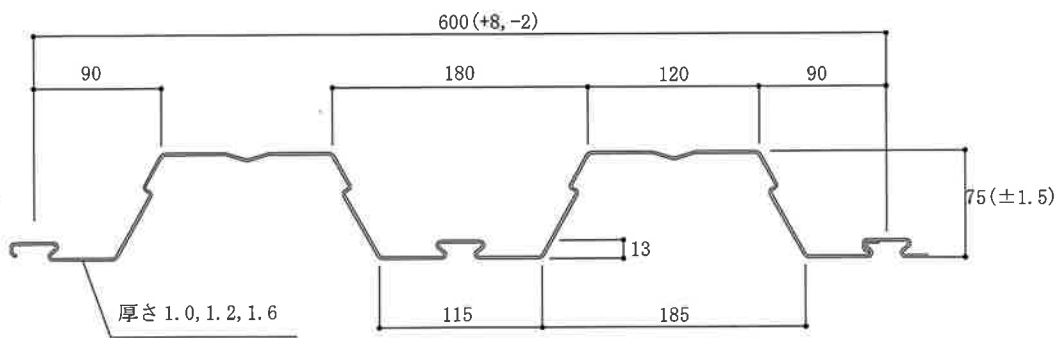
(寸法単位：mm)



[3] B-B断面図



[4] デッキプレートの形状・寸法



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

5. 施工方法等

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置し、デッキプレートをはりにアークスポット溶接等で仮止めする。

2) 床スラブとはりとの接合

床スラブとデッキプレート端部鉄骨はりとは、頭付きスタッドで結合する。

頭付きスタッドの接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

床スラブとデッキプレート中間部鉄骨はりとは、焼抜き栓溶接又は頭付きスタッドで結合する。

デッキプレートとデッキプレート中間部鉄骨はりとは、焼抜き栓溶接で接合するか、又は頭付きスタッドを用いる場合は、頭付きスタッド施工前に、アークスポット溶接等で接合する。

3) ひび割れ拡大防止

コンクリートのひび割れ拡大防止のためスラブ上面より約 3cm の位置に溶接金網または異形鉄筋を設置する。溶接金網または異形鉄筋の施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」および「鉄筋コンクリート造配筋指針」に準拠する。

4) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

5) コンクリート仕上げ

コンクリートの表面に金ごて等の仕上げを施す。

6) コンクリート養生

施工後の養生は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。